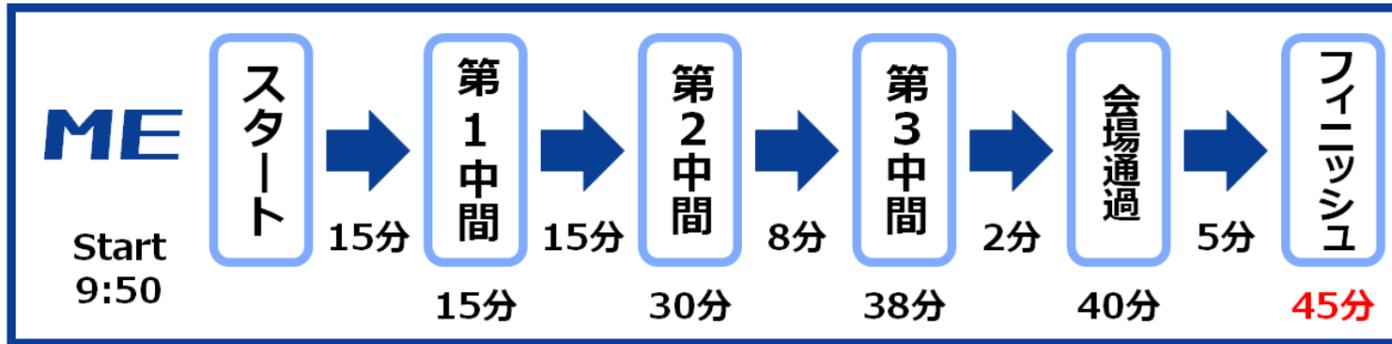


ICR2025 観戦ガイド 男子選手権の部

予想中間通過タイム



会場レイアウト図



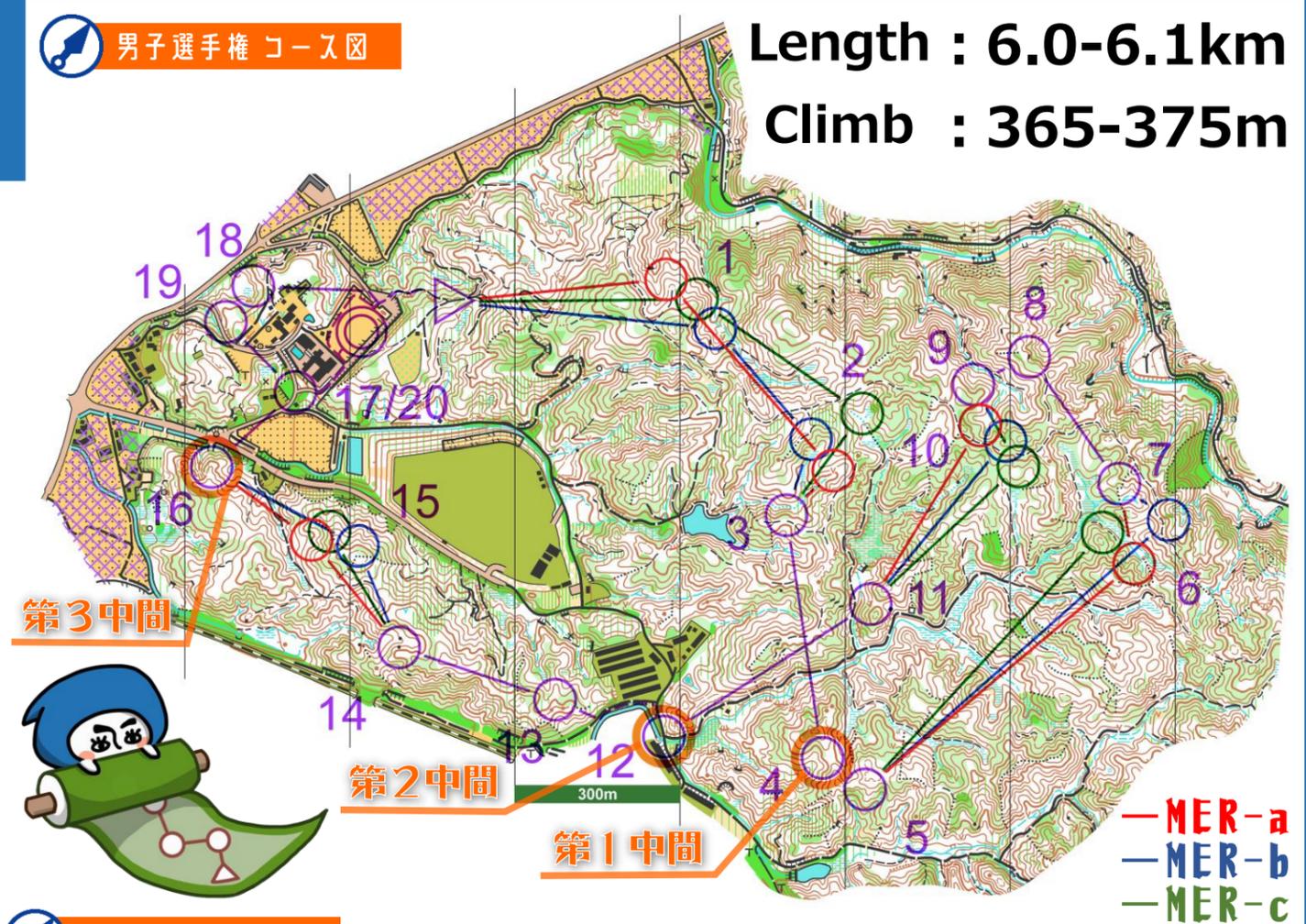
エントリーリスト

No.	大学名	GPS	近年のICR成績			
			2024 日光所野	2023 三河高原牧場	2022 石尊山	2021 青山高原
1	東京大学	●	優勝	優勝	準優勝	優勝
2	筑波大学	●	準優勝	5位	3位	4位
3	京都大学	●	3位	3位	優勝	準優勝
4	横浜市立大学	●	4位			8位
5	横浜国立大学	●	5位	準優勝	4位	10位
6	名古屋大学	●	6位	4位	7位	
7	立命館大学	●	7位	7位		
8	早稲田大学	●	8位	6位	6位	3位
9	法政大学		9位			
10	東北大学	●	10位		8位	
11	新潟大学			9位	9位	6位
12	東京理科大学				10位	
13	慶応義塾大学					
14	千葉大学					9位
15	日本大学					
16	一橋大学					
17	北海道大学			10位	5位	5位
18	岩手大学					
19	広島大学					
20	東京科学大学					
21	茨城大学					7位
22	神戸大学					
23	金沢大学					
24	東京農工大学					
25	北海道大学大学院					
26	静岡大学					
27	混成A (立教・徳島・秋田)					
28	混成B (京都工芸繊維・東京農業・大阪公立)					



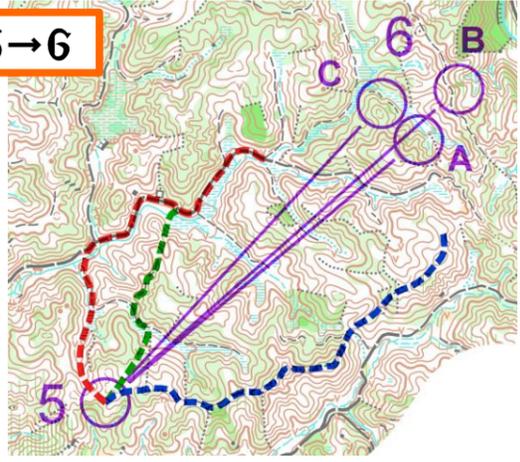
男子選手権 コース図

Length : 6.0-6.1km
Climb : 365-375m



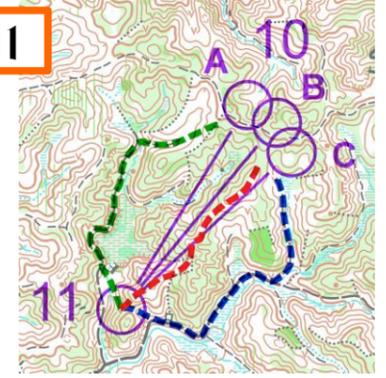
注目レッグ紹介

5→6



本コース最長のレッグ。レッグ東方の尾根線を使うプランと西方の道を使うプランの2種類が考えられる。東ルートはナビゲーション負荷や起伏を考えるとやや不利か。西ルートは道に乗るまでの区間で小径を乗り継ぐ緑と、4番コントロール方向に戻り沢を下る赤が考えられる。緑ルートは距離・登高ともに優れる。シンプリファイをしてスピードを上げられると速いだろう。赤ルートがナビゲーション負荷の低さと走りやすさから最も有利と想定している。出戻る方向の脱出で見えづらいが冷静に見極められるか注目だ。

10→11



尾根線をたどる赤ルートが主力となる。下り基調で上手く走ればとても爽やかなレッグだ。反面スピードが出てしまう中でナビゲーションを維持する必要があり、「ハイリスク・ハイリターン」とも言える。そのため状況によっては距離は膨らんでしまうが東西の道を使う青・緑ルートの採用も考えられる。ルートチョイスに選手の戦略が垣間見えるかもしれない。直後の道走りレッグと合わせて、選手の実績によって順位の変動が起こりそうな区間である。

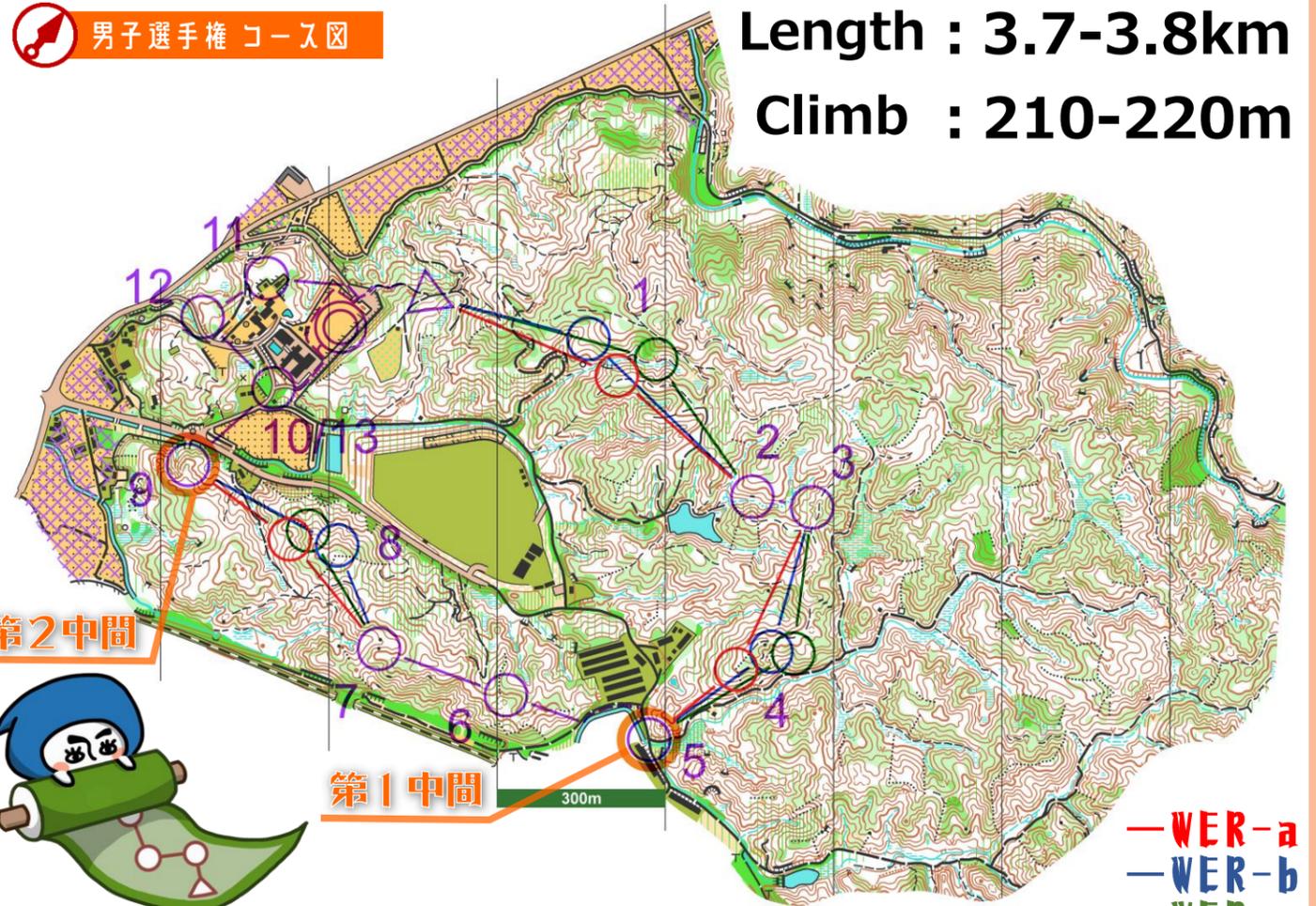
コメント・観戦ガイド作成：祖父江有祐 (リレーコースプランナー)

ICR2025 観戦ガイド 女子選手権の部

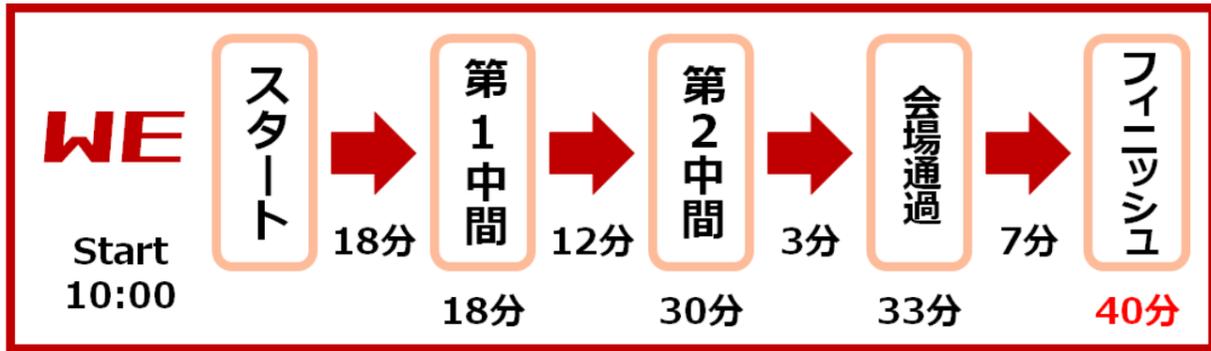
男子選手権 コース図

Length : 3.7-3.8km

Climb : 210-220m



予想中間通過タイム



会場レイアウト図



注目レッグ紹介



3→4



中盤のパターン振りのあるレッグ。起伏が少なく走りやすいためスピードが求められる。
 基本は尾根たどりだが、B・Cパターンは尾根線から一段低い位置に4番コントロールが置かれている。人につられず、適切なタイミングで尾根線から外れたい。余計な減速を避けつつも正確にアタックができるかが問われる。
 Aパターンのみ尾根線をたどっていれば自然とコントロールに到達できるよう設定している。1番コントロールがやや不利なパターンだが、仮に遅れを取ったとしてもこのレッグで逆転が狙えるだろう。アタックが容易な分、自信をもってスピードを上げて走りたい。

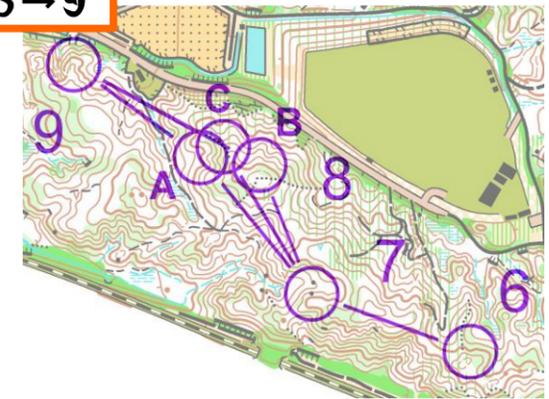
エントリーリスト



No.	大学名	GPS	近年のICR成績			
			2024 日光所野	2023 三河高原牧場	2022 石尊山	2021 青山高原
31	筑波大学	●	優勝	優勝	優勝	
32	京都大学	●	準優勝	準優勝	4位	6位
33	横浜国立大学	●	4位	4位	10位	8位
34	日本女子大学	●	5位		8位	5位
35	東京理科大学	●	6位		9位	7位
36	お茶の水女子大学	●	7位	9位	3位	
37	東北大学	●	8位	3位		
38	北海道大学		9位	8位		
39	東京大学		10位			
40	早稲田大学					
41	千葉大学			5位		
42	横浜市立大学				7位	優勝
43	京都女子大学			7位		
44	名古屋大学				6位	
45	奈良女子大学					
46	相模女子大学			10位		
47	広島大学					
48	岩手大学					3位
49	金沢大学					
50	一橋大学					
51	茨城大学					
52	福山学園大学					
53	混成A (法政・順天堂・静岡)					
54	混成B (龍谷・立命館・神戸)					



6→9



第1中間-第2中間の間、南側の山塊を通る区間。男子選手権とほとんど同じ回し(6番コントロールの位置のみ若干異なる)となっており、女子クラスの後半にしては負荷が高めと言える。
 会場通過後の残り区間は短いため、9番コントロール時点の位置取りが戦局を大きく左右するだろう。疲労も出てくる後半のこのエリア。各レッグの難易度は低めだがアップダウンに富んだ回しとなっている。意地の見せ所だ。

コメント・観戦ガイド作成：祖父江有祐 (リレーコースプランナー)